

「マネジメント：基本と原則」(エッセンシャル版) P.F. ドラッカー 著；上田 悅生 編訳
ダイヤモンド社 2001年12月発行

私は、大学院でアントレプレナーシップ専攻に進み、修了時に MBA (Master of Business Administration) という学位を取得できました。この道を選択した理由は単純で、高額な年収が目当てでした。当時の雑誌には、MBA があれば年収 2000 万円以上と書かれていました。運よく、多くのつわものを退けて、首席で修了できました。そのため、将来を大きく嘱望されましたが、現状はこんな感じです。後から聞いた話で、稼げる MBA と稼げない MBA がいることを知りました。私には、学んだ知識も、研究した内容も、ほとんど役に立っていません。たまに、経営に関する講演をしたり、4M の生産技術論で年に 2 回だけ、会計学を教えている程度です。当時の同級生や後輩たちが社会で活躍し、マスコミにちやほやされている姿を見ると、少しだけ羨ましく思いますが、ビジネスより、ものづくりをしている方が幸せなので、この道を楽しみ続けることに搖らぎはありませんが…

ただ、最近、旭川高専も高専発ベンチャーなど、起業に関心を持つてくれる学生が出てきましたので、もし、少しでも興味のある方がいましたら、ドラッカーの「マネジメント」を何度も繰り返し読まれることをお勧めします。10 年くらい前になりますが、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」という本が大ヒットし、猫も杓子もドラッカーがぶれになりましたが、時代が変わっても「基本と原則」は押さえておくべきです。

この本の内容は、学生のとき、社会人になったとき、管理職になったとき、経営者になったとき、それぞれの立場で解釈が異なるかもしれません、どの立場でも共通して成功するカギは、「真摯さ」です。みなさん方も、まずは自分自身をマネジメントしなければならないわけですから、自分を上手にコントロールする方法を学ばなければなりません。

また、私たち技術者・科学者は、大衆の知らない知識やノウハウを持っています。つまり、医者や弁護士同様に、プロフェッショナルの責任を負うのです。このような人たちに、ドラッカーは、「知りながら害をなすな」と言っています。昨今、核のゴミが話題に上がっています。首長たる者は、私的な短期的利益によってではなく、長期的な公的利害によって、動かなければならぬし、この道のプロならば、知らぬふりして行動しないのも害であると言っています。

ドラッカーに関する本はたくさんあり、分かりやすいもの、分かりにくいもの、多種多様です。自分で読めそうなものから読んでみてください。興味のある方が複数いれば、ドラッカー勉強会を立ち上げてもいいかなと思っています。

以上